

(様式第4号)

上田市交流文化芸術センター運営検証委員会 会議概要

1 審議会名	上田市交流文化芸術センター運営検証委員会
2 日時	令和2年2月4日 午後2時00分から午後3時55分まで
3 会場	上田市交流文化芸術センター 多目的ルーム
4 出席者	今井裕委員、岩木功委員、荻原康子委員、関和幸委員、 竹田貴一委員、吉本光宏委員、渡辺弘委員
5 市側出席者	柳原政策企画部長、津村館長、久保田副館長、 小澤プロデューサー、堀内総務係長、掛川広報等係長
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍聴者	2人 記者 1人
8 会議概要作成年月日	令和2年2月4日

協 議 事 項 等

1 開 会 (久保田副館長)

2 協議事項

(1) 全体的事項について

(館長) 前回までの議論をもとに答申書の素案を作成した。委員には事前に送付し修正等の連絡があったものを反映し改めて配布している。項目ごとに確認いただき答申書としてまいりたい。

答申書素案の「はじめに」と「1 検証にあたって」を久保田副館長より資料により説明

(委員) 全体的なとりまとめについては私が持参した意見書に示してある意見。

(事務局) 委員の意見は全体的なとりまとめとして、論点や課題、今後の方策を明確にすべきである。検証委員会の検討結果による意見書とすること。課題解決のための仕組みの提言が必要ということ。

答申書素案の「2 自主事業について」を久保田副館長より資料により説明

(委員) この部分が極めて重要な部分なので議論したい。収支のことが重要、当初計画の3.14億円を上回った補填がなされている。支出に占める収入の割合もこの5年間は2割から3割、中でも特に人件費と施設管理費の率が高く収支の構造が支出超過になっている。ここが最大の問題。だから収入も増やさなければいけないし支出も何とか削るようにしなければならない。ただし、文化の社会的な役割のことも、施設の効率的な運営のことも常に相反する課題として議論になる。そこをどうバランスをとるのかというのが問題。長野県一あるいは全国有数の施設を目指そうということやってきたのだろうと思われるが、果たしてそれが5年経過した今後も続けていくことになるのかどうか、少子高齢化で市の財政負担が増えている、公共施設の維持管理費用は削減させていかなければならないということになるはず。今後この施設はどうするんですかという大きな論点のところなので、ここのところはもう少し議論してもらいたい。

(事務局) 2項目めは自主事業の項目で、委員の意見は管理分も含んでいるので、そこをどう整理するかということにもなる。自主事業がなくても管理だけで相当な金額になる。これだけの規模の館を管理運営していくのは最低限必要な金額というのはある。そもそもこの規模の館を作ったことにさかのぼる。それをどう管理運営していくのか。

(委員) 本当はなんであんな大きなとなりがちだが、そこになると元も子もない、もうできているので、そこまでは言及はしないが。

(事務局) 方法論でいうと、この規模の館は最低これだけの金額が掛かるということは最初から分かっていたので、それ以外の部分をどうなくすかという形にしていけないと増えていくばかりになる。何かやれば人も含めて金額が増えていく、そこをどう考えていくか。

(委員) 収入のところ、ネーミングライツもあるし広告取るとか広告を入れるとか色々な手立てをやろうということで提案している。そうやって収入を増やし経費を減らしということではいかんかとしどころの数字に持っていかんかということだと思ふ。

(委員) この項目は自主事業についてなので、切り離して考えると、総体としては市の負担が大きいのでは出ている。そこをどう切り離して考えるか。施設管理のところでは使用料金の見直し、増額ということがあるのでそこを含めて今おっしゃられたようなことを出していかんかと思ふ。自主事業にそこを入れると全体の書き方のバランスがどうなのか。今の項目は別に出すか、どう思われるか。

(委員) 自主事業だけで解決する話ではないので、6の今後の施設運営のあり方に、(1)が指定管理者、(2)が運営に係る経費を書いているので、委員がおっしゃっているのはいかに財源の多様化をしていくかということに含まれていく。ただ(2)だと経費の節減のことになってしまうので、(3)として運営全般のことと分けた方がいいように思う。

(委員) 今の意見を事業費だけでいうのは違和感がある。2ページ目に表で数字が具体的に出ていて、上田市交流文化芸術センターは111百万円に対して、収入は自主事業収入だと3千万、支出分の収入は2から3割だという意見だが、使用料金も収入だし、国県の補助金も市の支出ではない、特に国の補助金については文化庁や地域創造に対して申請をして獲得をする努力をしている部分。ここの自主事業の部分だけをことさら取り出すと事業を縮小すれば経費が減るからそれでよい、となっていくそうなので、全体の収支についてこの中に書き込むとすれば最後のところに「運営に係る経費について」というところがあるので、そちらの方が適切かと思ふ。

(事務局) 順番はどうか、いきなり自主事業が出てきているが、違和感はないか。

(委員) 全体の話があつてから、事業、運営といった方がいい。

(事務局) 全体の話があつてから、自主事業をどうしていったらよいかとか、最初に全体があつて、そこから切り分けて一つ一つ確認をしていくやり方のほうがわかりやすいか。

(委員) いきなり収支から入るのも検証委員会としていかなものか、全体の話から入るのが良いと思うが、収支が重要な課題なのは同感だがそこからいきなり入るのは。

(委員) 総体として項目ごとに平易に書きすぎている。課題、問題点がありそれがどういうことで、だからこうだ、こうだというように理詰めで押していけないと、さら、さらっと流れて、最後のまとめにしても問題意識危機意識の欠けた通り一遍の内容になっていて、歯がゆい。この間もっと激しい議論をしてきたと思つている。まあ次に行ってもらってよろしいが。

答申書素案の「3 貸館事業について」を久保田副館長より資料により説明

(委員) この通りに行うのは難しい、他に利用できるホールがあればそちらに利用を促してというのもあるが、具体的にここここは大丈夫そうだというのはあるか。

(事務局) 市内には丸子地域に800席のホール、旧上田市市内にも500席のホールがある。公民館も9つあり、そういった施設の利用も可能だが、サントミュージアムができて新しい施設で使いたいという気持ちはわかるが、今まで公民館で行っていた事業や、大ホールで行ったが集客や舞台規模が小さくほかのホールや公民館でも十分という事業も目立つので、申し込み時点で他ホールや公民館の利用なのかどうかということの説明も必要だと感じている。

(委員) 4項目の中で(4)の「行政機関や教育機関の減免による利用」が重要。減免になると使用料収入が減るということは収入減になるし、行政機関と教育機関の2つあるなかでとりわけ行政機関、学校は文化施設の利用を内容によるがむしろやっていただきたい、市の

行事が沢山あるのであれば、それこそ公民館とかで行っていただくことにより利用の枠を広げれば収入も増えるし、利用を申し込んでも使えないという批判にも対応できるし、具体的な対策を講じやすい部分がある。

(委員) 40%はすごい数字。

(委員) 行政機関と教育機関の内訳は。

(事務局) 教育機関の方が多い。行政機関の利用はほぼ平日、一般利用は土日が多いので、実際にはそれほどの影響はない。副館長の説明のとおり集客や規模が小さいものであれば別の会場も検討していただきたい、平日でも一般利用の可能性があり収入確保につながると思う。

(委員) 行政からの施設利用料は全く取れないのか。

(事務局) 国県からは50%、市の内部のものは100%減免。

直営館だからという理由。財団による指定管理であれば、この件は大きな課題になってくる。また、他のホールへの誘導は、合併した都市がどこも抱えている課題、どこかセンターを作ってそこが交通整理をするというやり方もあるが、それで失敗した例もたくさんあるので、かなり考えて進めないといけない課題。

(委員) 入場者数である程度設けて、これくらいの人数ならばどこを利用くださいといったような申し合わせ事項のようなものを作らないと、集客や舞台規模が小さくても皆さん大ホールでやりたいですよ。華々しいわけです、あそこに立つだけで満足感が得られる。そういったものを説得するにはこういった規約があるので他のホール使ってくださいとしないといかないと、お断りするものがなくなってしまいうるので必要だと思う。

(委員) 利用申し込みの倍率は。土日は高いと思うが、平日は。

(事務局) 平日はほぼ重複しない。重複するのは土日の利用で6月とか秋口、皆さんやりたい時期がかぶる。

(委員) 実情を丁寧に説明した方が良く、自分が申込みに行ったところが利用できなかつたりすると、使えないということになるが、ここに集中しているが、他の時期、特に平日は使えるとという説明をしたほうが良い。

(事務局) 重複して取れなかった方については、同月内の別日程を優先してご案内している。

(委員) 学校だと日が決まっている場合があり、譲るように先生方に言われることもあるし、日を重ねないようにしている。その辺も調整会議をやった方が良いのではないかと。

(事務局) ここに関してはいろいろなアイディアも含めて提案していければと思う。

(委員) 説明資料として、行政機関と教育機関の減免での利用が40%あり、減免しなかった場合にはいくら入ってくるのかという数字をデータとして持っていた方が良く。その額は市からの繰り入れで当然ですよという説明ができると思う。

(事務局) ホール代だけでなく、技術スタッフ代もかかっている。

(委員) たとえわずかでも市から入れるということはできないのか。

(委員) 直営の場合のそういった整理の方法というのはあるのか。実際の数字がどうかというの見える。

(事務局) 開館前にもそういったことは議論されたことはある。本来であれば学校が使うのであればそれぞれの学校で会場使用料の予算を取って、私どもに正規料金を払っていただければ私どもも使用料として数値が上がりますが、財政サイドとの協議の中で財布が同じという話になり、歳出予算を組むとその財源も必要になるので、なかなかそうならない。

(委員) できればどういう行政機関と教育機関が減免を受けているのか出して欲しい。

答申書素案の「4 施設管理について」を久保田副館長より資料により説明

(委員) この委員会の答申として増額改定ということで意見を取りまとめていただきたい。先ほど申し上げた収支状況を踏まえ収入の一番の根幹である施設利用料金を増額改定しないということになると話の筋が通らない。それは何としてもその方向で検討すべき。もし料金改定しないとなるとどうなるのというと、改定は受益者負担だが、改定しなければ一般財

源の持ち出しになるので、市民が平等に利用している人もしていない人も負担することに理屈的にはなるので、それは受益者負担でしょうということになると思う。

(委員) ここに書いてあるより強い表現でということか。

(委員) (3)を削除してほしいということ。先に経費節減や収入増をしてからという表現ではなく、あくまでも増額改定をすべきという一本の意見にまとまらないか。

(委員) 後先の表記の問題ではなく、使用料の改定による収入増とあわせて、経費縮減や使用料以外の収入増の方策を行うべきである。ではどうか。利用料金の改定は市民の反発を受ける可能性があるため利用料金の改定に対しては市民の納得が得られるような丁寧な説明が必要であるということを入れないと、利用者から何でという声は上がると思う。

(委員) その点では、以前意見があったが改定のランク付けをするよい。入場料を取らない場合、非営利だが入場料を取るもの、営利のものに今別れている。そのランクで増額幅を調整するということである程度の緩和が取れるのではないか。市民の理解云々だが、これだけの財政負担をしている中ではそれを超えているのではないか。せざるを得ないのではないか。

(委員) それは市民ではないのでよくわからないが。あわせて、ここに書くべきかどうかはあるが、上げる理由をきちんと説明しないといけない。前段として市の厳しい財政状況があるわけで、だから利用料金の増額をして利用者負担で市の財政負担をなんとか健全化するためにもお願いしたいということをごどこかに書いておかないと、そういうことも含めて丁寧に説明したほうが良い。冒頭に議会からいろいろ意見がありましたというのと合わせて、財政状況とか今後の見通しとかを考えても税金が増える状況ではないし、社会保障費や教育費を減らすわけにはいかないことを考えるとという大前提がある。その説明がないまま上げるべきというと、答申自体がすごく説明不足になる。それが大前提として書かれていて、だからこの料金も上げる検討をしたほうが良いというのが、この検証委員会の意見ですとするとわかりやすいと思う。

(委員) 今の委員の意見に賛成。これだけ努力が必要だ、それをやったうえで一文を入れないと単に増額と述べただけでは納得はされない。

(委員) そのうえで土日休日料金をぐっと高めに設定し、平日の利用を促すような考え方もいいと思う。

(委員) しかも長野松本よりさらに低い。そこをうまく文章にまとめればよい。

(委員) 別のポイントで、(2)を読むと、料金が低いから稼働率が高くなっていますというのを、増額改定の理由としているが、増額すると利用率が減る可能性がある、そうすると収入は同じなのではという疑問は出ないのか。本当に料金を上げて収入が増えるのかと思う。

(委員) 労務管理上、稼働率は下げたいし、稼働率が下がれば収入は減るし、利用料金は上がるし。全部入れ子になっている。

(委員) それはバランスの問題、当然下がるし、住み分けができる。逆にそのことをすべき。

(事務局) 料金の増額をどういうニュアンスで出すか、こちらを立てればこちらがとなるので。

(委員) すべて絡んでいるので、全体の話として収支の中のこととしてすべきであって、類似施設と比べて低いから上げるという論理ではないから。

(委員) 5年間やってきて労務管理上の問題も出ているし、サービス向上するにはどうしたらよいかもあるし、これから長期修繕も出てくるし、将来を考えたときにもう一度ここで料金を見直して、適切にしたと言った方がよい。(4)の公共施設全体の見直しは必要か。全体の考え方になるとすごく時間がかかるので、これはいらぬのでは。

(委員) 行財政改革推進委員会で市全体の公共施設の利用料金の設定を見直すように来年にかけてなっているが、この動きは関係ないのか。

(事務局) 同じ動きの中にはある。本来であれば5年間やってきて市民の皆さんの評判も良い、事業もこれだけ行って文化芸術も高まってきたと思う。それに対してこれだけ経費が掛かっている、だからもう少し使用料を上げさせてもらいたいというのが本来だと思う。修繕の話も当然あるし、使用料が安いのために稼働率があがって労務管理上の問題が当然出てくる。行政からすると市民サービスがこれだけ維持できていて、満足度が高くて、これだけ

経費が掛かっているからお願いします。というのが言いたいところ。

(委員) 今の文言どおり書いたら良い。

(事務局) そうはいつでもそれだけでは上げられないので、その前には経費の削減とか努力はしなければいけないのと合わせてご理解いただければと思う。そこが書きづらい。委員の皆様は5年間やってきた自主事業を評価いたしたけるということであれば、そういった書き方もできるかと。経費が少しかかりすぎとか、ここは直した方が良いというご意見はあると思うが。総論としてそういったご意見いただければそういった書き出しはできるかと。

(委員) 答申なので、増額すべきだと明記した方が良いと思う。

(事務局) 増額に関しては異論がないと思う。

(委員) (4)が入っているのは利用料金が入ることによって他の施設とのバランスの問題が出てくるので入れざるを得ないのでは。

(委員) 他の施設と比較して料金はどうか。

(事務局) 松本との対比で設定されている。

施設単独で上げるとなると、他の施設とのバランスもある。

(委員) 改定のごことは微妙な問題なので、いろいろな審判があるが、額からいえば大したことはない数百万、1割上げたとしても3~400万円。おそらく落とすところとしては1割増だと思う。そうするとまだ松本より低い、3~400万円の収入増、さしてそのことが収入上の大きな要因ではない。要はそういう姿勢をもって望むかが一番大事なところ。

答申書素案の「5 経済波及効果について」を久保田副館長より資料により説明

(委員) 東京への直接発注が約1億円あるが、これは地元発注にはならないのか。できる人がいないとは思いますが。

(委員) その部分は地元への経済波及はなくなっている。1億だから大したことはないが。

(委員) そこは事業の質を優先させないと。地元経済も大切だが、サントミュージゼは経済波及効果を生み出す施設ではなく文化サービスを提供する施設なので、文化の質を押さえてまで、地元波及効果を優先すべきではない。もちろん地元アーティストが育ってきて、地元で活躍できる人が増えてくればそういう人たちにチャンスが出てきて、地元にもお金が落ちるし、地元で経済波及効果が生まれるようになると思う。開館5年ではまだまだつらいところ。

答申書素案の「6 今後の施設運営のあり方について (1) 直営、または指定管理者制度による施設運営の方向性について」を久保田副館長より資料により説明

(委員) イのところは5年毎に指定管理者が変わるとあるが、5年とは決まっていなくて、指定期間の終了に伴いとした方が良い。

(委員) ウの2020年の新学習指導要領のところ、上田市の小中学校の在り方研究会で特色ある上田の教育は何かと議論されている。その中でサントミュージゼが行っている体験学習クラスコンサートが非常に重要であると、新しい学習指導要領にマッチしているし、これから力を入れていくとなっているので、特にウについては意義もあるし必要もある非常に重要なことなので、強い意味を込めて是非そのまま載せてほしい。

(委員) これは指定管理だとやりにくくなる。ましてや民間が入ったら。

(委員) 指定管理でうまくいっているところもあるので、必ずしも指定管理がダメというわけでもない。全体的に5年経過しているからこれからは変えていかなければならない。それをスタッフもそうだし変えて違うことをやっていかなければならない。収入増もそうだし経費削減も、その努力を極めて懸命な努力をしないと先の収支改善に結びつかないということなので、その前提の下でそれでも収支改善にならなければ指定管理の導入も視野に入るということを私は一文として入れて良い気がする。しかも導入するとは言っていない導入

も視野に入るといっている。指定管理者が今運営されている当事者として難しいというのであればそうでないように今後の運営について改善と方向転換と内容もシフトするということが果たして現状のスタッフでできるのかどうか、できないとすればそれなりの対応が必要だということだと思う。

(事務局) 指定管理者としていかがか。

(委員) 指定管理者としてこれだけの事業を受けるとなれば、私はやらない。確かに難しいところ。エの運営検証組織は曖昧ではないか。

(事務局) 立ち上げるとなれば新年度予算で新たに予算化し、人選についても専門的見地の方、地元の方と協議いただく委員会としたい。

(委員) 私のところも、区が作った財団、自治体が作った財団なのでまだ、自治体とコミュニケーションができる部分があるが、美術館の方は半分民間。文化行政に寄り添うという前に、自分たちの営利目的が先に行きがちになる。指定管理者を誰が担うかがすごく大きなところだと思う。コストカットや効率的な運営が民間だとすごくうまくいくのではというのは幻想。アのところは全国的な一般のことを言っているが直営による運営のメリットをしっかりと強調しないといけないと思う。上田市としてサントミュージゼを核とした文化行政を進め実現化していくためには直営の方が今は望ましいのではということ。自治体立の財団でも長年経ってくると、時代によって本庁も変わっていくので追いついていけないとか、いろいろな課題がある。

(委員) 指定管理も当然選択肢のひとつだが、今の運営の状況を考えると、ここに直営でうまくいかなかったら指定管理を考えるべきだと記載すると、ここまで収入のことなどいろいろ書いてきておいて、民間に対して安く抑えるというのが指定管理の先に見えるが、直営から指定管理に変えると考えただけでも相当大変なことが沢山ある。人はどうするのか、担当者は全部変わるかもしれないし、その財団を仮に上田市が作ってそこに出すことを前提に指定管理すると、それは指定管理ではないし、ここに指定管理の記載をするのは、今の状況を考えると厳しいと思う。各委員はいかがか。

(委員) 指定管理者を検討した経過を残す意味で、柔らかい表現で入れた方が良いかと思う。

(委員) 入れるとすれば、かなり柔らかい表現で。

(事務局) 指定管理者で不幸になっているところは、自治体が指定管理者のことを理解していないということが多く見受けられる。それぞれ指定管理に公園も駐車場なども含めてなっていくが、それぞれの施設の内容が全部違うのに、全庁ルールで一つにくくられている自治体があるが、そこは美術館も含めて文化施設は総倒れになっている。指定管理者制度はいろいろなタイプがある、二階建て三階建てなどもあり、そのあたりも踏まえての検討なのかと思っている。

答申書素案の「6 今後の施設運営のあり方について (2) 運営に係る経費について」を久保田副館長より資料により説明

(委員) 一般会計予算に占める割合に係るとあるが、「係る」を「基づいた」に変えた方が一般には分かりやすい。

(委員) アの上の部分は、先ほど申し上げた収支の現状の絡みのことであるので、当然直しが入ってくると思っている。ここの下部は事務方の説明になっている。イのところには広告収入は入らないのか、ウはどういうことを言おうとしているのか。

(事務局) ウは市内の文化団体に補助金等の額が少ない、文化行政全般も含めて考えてほしいという意見があったのでこのように記載した。

(委員) 市内の他の文化施設との連携ができるのか。

(事務局) 先ほど議論にあった公民館との住み分けなどを言っている。

(委員) 経費のこととあまり関係がないので違和感がある。次の7に入れた方が良い。

(委員) (2)の1文が長いので修正が必要。

- (事務局) 先ほど出た全体予算や稼働率の部分と合わせて整理する。全体像の部分を経費のところに組み込んだ整理の仕方によいか。
- (委員) 自主事業についてのところに収支の表が入っているが、合わせて移動した方がよい。その現状を踏まえてこういった改革が必要といった方がわかりやすい。
- (委員) 施設管理に係る金額は美術館が含まれているのでは。ホールについての記載の中にここだけ美術館を含んでいるので、説明がないとホール運営にもものすごい経費が掛かっているように見える。美術館は作品を持っていて 24 時間空調も含め経費が掛かるので、面積按分などで分けたものはないのか。
- (事務局) 面積按分での試算はある。
- (委員) 他館との比較の根拠として出して欲しい。
- (委員) 数字は一度出してしまうと独り歩きする危険な面があるので、正確な方がよい。
- (委員) 総枠制の提案をしたが、他の委員はいかがか。
- (委員) こういう方式をやっているところは他にあるか。財政状況が良ければ予算も増えるというところ。税金が格段に増えることは考えにくいと思うが、財政状況厳しければ予算は減る。
- (委員) 政策判断が入るところがポイント、市がどう考えるかという。
- (事務局) 基本的には税金。一般会計を基礎とすると、今の災害対応で国から補助金などが沢山来ればそれで一般会計総額が増えるのでそれが基礎になってしまう。
- (委員) これまでの 5 年間で議会も含めて議論になってきたところ。文化行政が大事だと思う人はもっとお金をかけて全国規模にしていけばよいとおっしゃる。片や重きを置かない人は、お金をかけすぎでしょうとなる。そこはどちらが良い悪いの問題ではないので判断してバランスを取らざるを得ない。総枠制を導入することによってそれが議会で認められるわけだから、その範囲で運営することになる。調べて提案しているわけではないが、おそらく全国にはない考え方。これは議会で十分もんでもらいたいと思っている。
- (事務局) かつて水戸美術館が 1% 枠でスタートされたというのはある。もし足らなければ施設が努力をする、ということになる。
- (委員) あるいはその限度の中での事業しかできない、ということになる。実際予算的にできるかどうか別問題だが。
- (委員) 指定管理料はどのように決まっているのか。
- (委員) ずっと下げられてきている。総枠制の方が意味助かるところがある。だいたいの予算が見えてくるので。
- (委員) 毎年下げられてどうなるかわからない中でやっている。
- (事務局) 指定管理で 5 年間のお金が決まっているのに、公的な財団がやっているとなぜかシーリングの一環に入ってしまう。そうすると 5 年間計画を立てているのにシーリングが掛かる。
- (委員) この施設だけの総枠制というのか、上田市の文化予算としての総枠制なのかということも議論の余地がある。美術館との按分でもこのパーセンテージが変わってくるので。一つの考え方としてはあると思う。
- (委員) 美術館には経費掛かりすぎという話はないのか。最初から不思議に思っている、なんでこちらばかりになっているんだろう。
- (委員) 私が計算したのは美術館も含めて総額でやっている。それは美術館も含めた施設全体だと思うので。
- (委員) 美術館も含めてと書くかどうか。美術館と交流文化芸術センター以外に市が文化事業を行っている予算はどんなものにくらぐらいあるのか。
- (事務局) 指定管理に出しているホールが 1 つあり、後はそれほどない。年間 3,000 万円位の指定管理料。丸子セレスホールが 800 席のホールで 3000 万円ぐらい、そちらはほぼ貸館の管理料。
- (委員) 委員が問題にしている一般会計の繰り入れの差額がわかるように記載した方がよい。

(委員) 市の財政の厳しさだとか様々なことを織り込んで、課題認識が出てくるように内容を改めてもらいたい。平易に書きすぎている気がする。財政の持ち出しが多く増えている中でこれからどうやってやっていくのか、真剣な議論の結果の中で今後の方向性を定めようとしている中で。最後には、なんといいっても行政の政策判断になると思う。どういう位置づけをするかは、そういうところも含めて書き込みをしてもらいたい。中ほどにある10年単位の年月がかかるという言葉は削除してもらいたい。5年ではできないからもっとかかるんですよみたいな、言い訳の数字に聞こえる。

(事務局) 前段の文化の在り方や施策展開などはいかがか。その中で財政が厳しいという中で文化芸術に対しての政策判断をという書きぶり。

(委員) その政策判断に基づいて相応の予算措置を講ずることになる。それが今より増えるのか減るのかはわからないが。

(委員) 前半の部分の認識は、上田でなくても他のところでも言える話。むしろ後半の上田市の文化行政、施策大綱の中の6つの柱の中でそもそもどう位置づけられているのか、そこからの話で書き起こしていった方が良い。その中で現状の財政の厳しさもあるといった課題も入れ込んでいき。事業の成果で10年単位の表記だが、極論すると事業の成果は全員に押しなべて納得する話ではないと思う。その成果も、直接的に文化の実りを得られる人達もいれば、直接的ではないところで、サントミュージゼがあったことで一度も足を運んでいないけれども良かったねと、果実を得る人たちもいる。成果が押しなべて認められることは難しいとした方が正直なこと。

(委員) 全文は確かに長すぎるのもう少し簡潔でも良い、10年という単位ははっきりと言い過ぎだと思う。教育の関係では、先ほど学習指導要領が変わる話をしたが、生きる力をつける、子どもを育てる、という子どもたちに必要な点という点の記載も必要なのでは。

(委員) 前段が長いので短くして、こうした現状を踏まえて以降のところは、文化の薫る創造都市の実現に向けて、サントミュージゼを核として5年間スタッフも努力していろいろやってきた。その結果市民からも満足をいただいております。一方で財政状況が厳しいことを考えるとここでいったん見直しを行って、長く安定的に運営できる道筋を作ることが将来に向かって上田市としてサントミュージゼを中心に文化を市民の皆さんに提供できることにつながるのではないかと。といったことを言うとなぜ見直しを行ったかがわかるのではないかと。

(事務局) 委員会でも芸術の必要性については皆さんにオーソライズしていただいているので、その必要性と、財政的な厳しさを盛り込んでいければと思う。当初スタートした時のミッションと目的に対して、政治的にどうなのか、行政的にどうなのかということをもとめていけないといけないと思っている。

(委員) ミッションを変えるべきということとは議論に出ていない。そのミッション前提に限られたリソースをつかってあわよくば今以上のサービスを提供してくださいということだと思う。

(事務局) ミッションの理念、柱は良いにしても、鑑賞からシフトする時期に来ているのではないだろうかということは方向性として出すべきと思う。

(委員) 大きな方向性としてはそうだと思うが、経費が掛かるオーケストラで入場者数が少ない。なので経費を削減したりすることを考えると、それをやめるのは楽ではあると思うが、これだけの施設を作ったのだから、オーケストラ公演をやった方が良いのでは、上田はオーケストラが聞ける街だということを、それをやめるとそれを戻すのは相当大変。入場者ももっと多いに越したことはないが、そこを歯を食いしばってやってきたと私は思っている。鑑賞事業をやめるにしてもこれだけの施設を作っているのだから、アウトリーチは重要だが、それだけだとホールがなくてもできることになる。多額の金額を投資して作った施設の有効活用するためにも、一定程度の鑑賞事業を続けないと何のために作ったのかとなる。上田市民が自分はオーケストラコンサートへ行かなくても、上田に住んでいたら子どもたちが行きたいと思ったらチャンスがある。そういう街というのは、文化を標榜するうえでシ

ンボルにもなるので慎重に判断いただきたい。

(事務局) オーケストラは当初のミッションにフランチャイズでと入っているのです、そこを受けて進めている。そういう意味で歯を食いしばってというところはある。そこをどう整理していくか。

(委員) 自主事業についてこう評価されたというのは入れなくても良いか、我々は評価したが、したうえで事業費はこうだと言わないと、事業評価はミッションの方向性は評価した、でもその運営に関して課題があるとできないか。

(委員) かなり高評価をしたつもりだが。

(委員) 概ね計画通り実施されているで終わっている。

(委員) 全体の事業に対する評価はあるが運営に対してこういう問題があると言わないと、後が続かない。

(事務局) 整理する。

(部長) 8月から5回にわたり熱心なご議論いただき感謝申し上げます。この検証委員会については市長公約の中でいわれており、ご意見を聞くということで、進めてきた。様々なご意見があり、市民の皆さんも同じようなご意見だろうと受け止めている。いただいたご意見を答申としてまとめ、議会や市民の皆様にご説明申し上げる中でまたいろいろなご意見が出ると思う。それについては来年度、答申を受けての運営方針を決める中でどのような取り組みをしていくか整理しながら策定していきたい。難しい部分もあるが、真摯に受け止め真剣に中味に取り組んでまいりたい、引き続きご指導ご支援をお願いしたい。御礼申し上げます。